

[前画面へ戻る](#)

科目名	日本語教授法A
科目名(英訳)	Japanese Teaching Methods A
科目ナンバー	HJ232D03
詳細情報	授業外学修時間:週4時間
担当者 (非)は非常勤講師	小森早江子
単位数	2
開講学年	2年
開講セメスター	春期毎週
対象学科 選択・必修	必修: 選択:HJ
他学科受講	
履修順序・履修情報	類似科目情報あり
担当者及び時間割	【春学期】 小森早江子:火7-8
カリキュラムの中での位置付け /DP(ディプロマ・ポリシー)	日本語日本文化学科の専門教育科目であり、言語分野の研究科目として位置付けられる。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ②:○ ③:◎
身につく基礎力 / 身につく汎用力	傾聴・受信力 クリティカル思考力 / 自立心 国際的な視野 実行力

授業の主旨 (概要)	この授業は、日本語を母語としない人に「外国語として日本語を教える」とはどのようなことを学び、日本語教授法の実践的な技能を習得する。様々な視点から日本語に関する価値観を理解し、社会における諸問題の解決、改善に貢献できるように、多様な人々と協働し、学び続けることができる。	
具体的 達成目標	日本語教育の現場で特に問題となる日本語の文法事項・表現を取り上げ、それを教えるために必要な知識を養うことができる。具体的には、受講者各自は、設問を通して例文をたくさん挙げ、その中から意味や使い方のルールを探し出すことができる。受講者には積極的に授業に参加することを強く求める。	
	1	【内容】 第1週目 オリエンテーション カリキュラムにおける位置づけなどを確認する。また、外国語としての日本語教育について文字、語彙、文法、意味の知識と学習者に正確に伝えるために必要となる方法を確認する。 【授業外学習】 シラバスを確認して、本科目の目的・概要・達成目標などを調べる。
	2	【内容】 第2週目 動詞 【授業外学習】 学校文法と日本語教育における動詞の違いについて、学んだことを復習する。分類法について考える。
	3	【内容】 第3週目 動詞の分類法 【授業外学習】 日本語教育での動詞の分類法を復習する。て形の作り方について考える。
	4	【内容】 第4週目 動詞 テ形の作り方 【授業外学習】 動詞のて形の作り方を復習する。それぞれ例が出せるようにする。形容詞について考える。
	5	【内容】 第5週目 形容詞1 イ形容詞とは 【授業外学習】 イ形容詞とはどういうものか、意味と接続の仕方から考察する。それぞれ例が出せるようにするナ形容詞について考える。
	6	【内容】 第6週目 形容詞2 ナ形容詞とは 【授業外学習】 ナ形容詞とはどういうものか、意味と接続の仕方から考察する。それぞれ例が出せるようにする

授業計画	7	【内容】 第7週目 助詞「に」と「で」
		【授業外学習】 小牧や春日井など周辺の日本語教育事情について調べてくる
	8	【内容】 第8週目 特別講義(「小牧近在の生活者の日本語学習一地域における日本語教育」)
		【授業外学習】 場所を表す助詞「に」と「で」の違いについて復習する。それぞれ例が出せるようにする
	9	【内容】 第9週目 助詞「は」と「が」
		【授業外学習】 助詞「は」と「が」の違いについて復習する。それぞれ例が出せるようにする
	10	【内容】 第10週目 希望・願望の表現
		【授業外学習】 学んだ希望や願望を表す言い方について、復習する。それぞれ例が出せるようにする。
	11	【内容】 第11週目 移動の表現
		【授業外学習】 学んだ移動の表現について復習する。それぞれ例が出せるようにする。
	12	【内容】 第12週目 「～ていく」と「～てくる」
		【授業外学習】 補助動詞としての「～ていく」と「～てくる」について復習する。それぞれ例が出せるようにする。
	13	【内容】 第13週目 「わかる」「しる」質問と復習
		【授業外学習】 「わかる」と「しる」のようなよく似た表現の違いはどこにあるのか復習する。それぞれ例が出せるようにする。これまでの学習を復習し振り返る。復習テストのための準備をする。
	14	【内容】 第14週目 復習テスト
	【授業外学習】 復習テストの内容を振り返る。	
15	【内容】 第15週目 総括	
	【授業外学習】 今学期の授業を総括する。復習テストを振り返り不十分なところをしっかりと確認して身につける。	
授業方法	講義と実習の組み合わせ 毎回、提出されたコメントシートの質問等は、次週の授業内で可能な限り、フィードバックする。	
成績の評価方法	授業への取り組み(毎回の授業終了時に提出するコメントシート)、復習テストの成績などを考慮に入れ、総合的に評価する。	
成績の評価基準	コメントシート(30%)、復習テスト(70%)として、総合点の60%以上を合格とする。ただし、出席状況や受講態度に基づく減点を行う場合がある。	
教科書		
参考文献		
備考	都合により、授業の進度や方法を予期せず変更する場合がある。	
関連ホームページ		
メールアドレス	小森早江子 komori@fsc.chubu.ac.jp	
オフィスアワー		

[前画面へ戻る](#)